

地域のニーズに応じた センター的機能を果たすために



はじめに

センター的機能の6項目

小・中学校等の
教員への支援機能

特別支援教育等に関する
相談・情報提供機能

障害のある幼児児童生徒
への指導・支援機能

福祉、医療、労働などの
関係機関等との
連絡・調整機能

小・中学校等の教員に
対する研修協力機能

障害のある幼児児童生徒
への施設設備等の
提供機能

研究の背景

センター的機能

小・中学校等の
教員への支援機能

特別支援教育等に関する
相談・情報提供機能

障害のある幼児児童生徒
への指導・支援機能

福祉、医療、労働などの
関係機関等との
連絡・調整機能

小・中学校等の教員に
対する研修協力機能

障害のある幼児児童生徒
への施設設備等の
提供機能



平成30年4月 開校

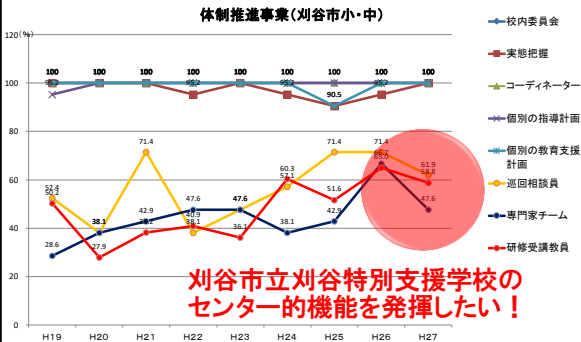
地域に根ざした
特別支援学校を目指す

新設校として

地域のニーズに応じたセンター的機能

を果たすにはどのような取組をしたらよいか。

刈谷市特別支援教育体制推進事業の推移



本校の目指すセンター的機能

専門家チームによる
教員の
サポート

相談機能

研修機能

地域全体の
特別支援教育力の向上

実践の経過

実践1 研修会の設定

連絡会の実施

連絡会

特別支援学級
担当者連絡会

肢体不自由学級
担当者連絡会

特別支援教育
コーディネーター
連絡会

特別支援教育の観点や知識等を発信

各学校間での実践や情報の共有

それぞれ年に3回ずつ実施予定

第1回の各連絡会

	特別支援学級担当者 連絡会	肢体不自由学級担当者 連絡会	特別支援教育 コーディネーター連絡会
参加者数	34名 (58学級)	10名 (10学級)	20名 (21校)
研修	講義 「子供たちの進路を踏まえた特別支援教育」	演習 「肢体不自由児と関わる基本」	講話 「特別支援教育コーディネーターへ」
情報交換	今抱えている課題及び悩み(障害種別3グループで実施)	(特別支援学級担当者連絡会で実施)	今抱えている課題及び悩み(全体で実施)

※ 夏季休業中に半日の日程で実施

※ 巡回相談の進め方について周知

研修と情報交換の2本立て

第2回の各連絡会

	特別支援学級担当者 連絡会	肢体不自由学級担当者 連絡会	特別支援教育 コーディネーター連絡会
参加者数	17名 (58学級)	9名 (10学級)	21名 (21校)
研修	講義 「知的障害のある児童生徒との関わり方」	講義 「肢体不自由児の教科指導」	講義・演習 「ともに学び合い育ち合う関係づくり」
情報交換	知的障害のある児童生徒との関わり方(障害種別3グループで実施)	肢体不自由児の教科指導・進路について(小・中学校別で実施)	各校の課題、実践、進路に向けてなど(3地区ごとで実施)

※ 2学期中の授業後や冬季休業中に実施

※ コンサルテーション方式による相談活動について周知

各連絡会のアンケート結果から

共通する悩みや対応策のヒントが得られてよかった。

具体的な動き、道筋のヒントが多く学ぶことができた。

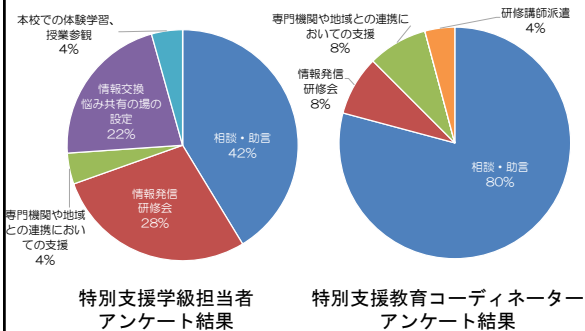
「講義+情報交換」という形で充実している

連絡会があることで顔つきができて、少し相談しやすくなった。

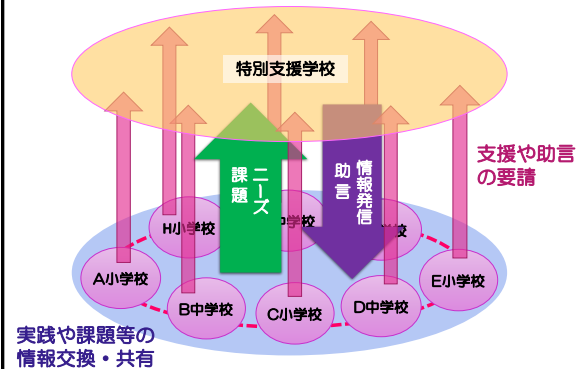
グループ協議のとき、具体的にアドバイスをもらえて、すぐに役立てることができそう。

お互いの困っていることを共有でき、たくさんのアイデアがいただけるのがありがたい。

本校に求められるセンター的機能



連絡会の意義



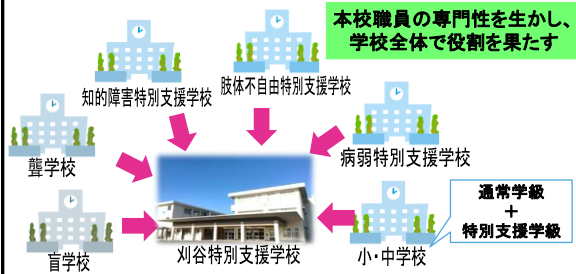
実践2 相談活動の実施

コンサルテーション方式による相談活動

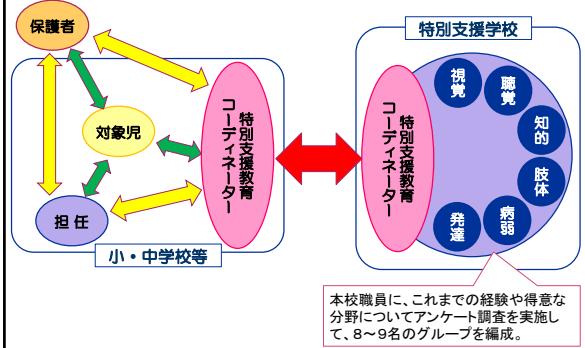
コンサルテーション方式とは

コンサルテーション

異なる専門性をもつ複数の者が、援助対象である問題状況について検討し、よりよい援助の在り方について話し合うプロセスのこと。



コンサルテーション方式による特別支援教育コーディネーター体制



相談対応手順

相談の依頼

・巡回相談、指導検討会、要請訪問相談など

相談内容と対象児の情報収集

・動画資料作成の依頼、相談内容の聞き取り

ケース会議の実施

・具体的方策の検討

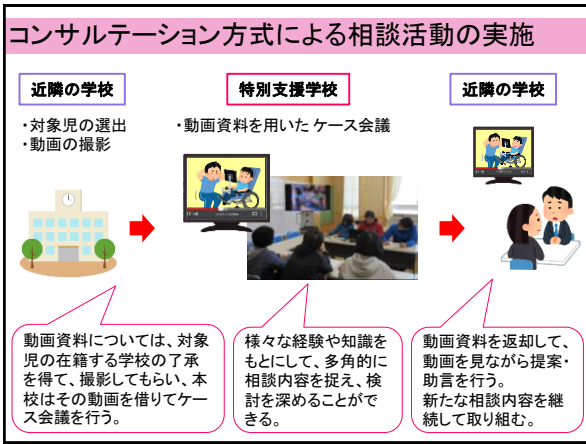
支援方法の提案、助言

相談校の実践

フォローアップ

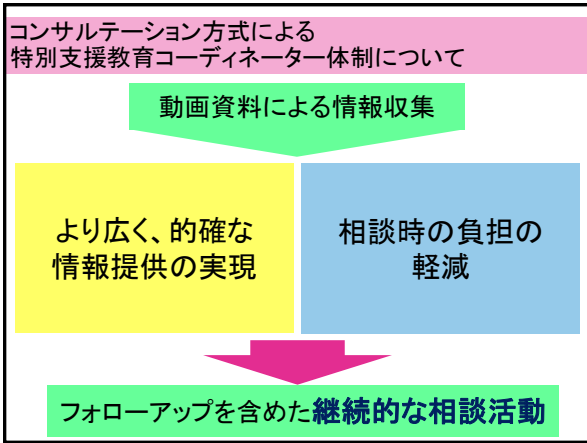
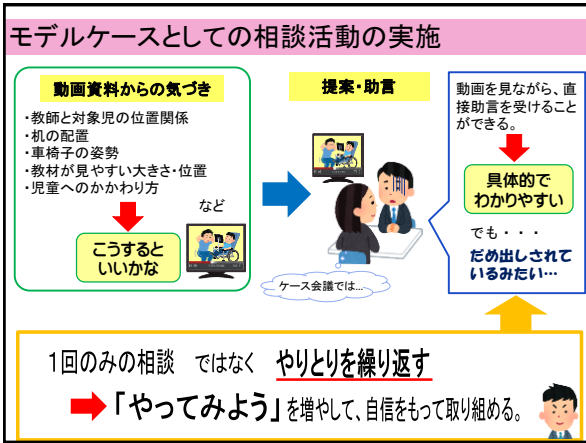
・実践を経た授業の参観、聞き取り





モデルケースとしての相談活動の実施

対象児	<ul style="list-style-type: none"> 脳性まひ 物を持って、すぐに投げてしまう。
主訴	<ul style="list-style-type: none"> 自分が活動したことで、物ができていく<u>こと</u>を感じながら制作活動ができるようになってほしい。
動画資料	<ul style="list-style-type: none"> 制作活動を中心とする生活単元学習の授業の様子
支援方法の提案・助言	<ul style="list-style-type: none"> 物を投げずにいられたときに褒められる経験の増加 物ができていく過程を見たり触れたりする時間と経験の増加 児童が教材を見やすく操作しやすい車椅子の背もたれの角度や机の高さの調整 学習場面に合わせた教室配置(座席)の工夫 教員と支援員の役割分担



コンサルテーション方式による特別支援教育コーディネーター体制について

専門性をもった複数の職員が同時に、または有効に時間を活用して視聴でき、多角的に相談内容をとらえることができる。

自らの指導や経験を振り返りながら、客観的な立場で意見交換を行う。

= 学びを深める機会

コンサルテーション方式による特別支援教育コーディネーター体制について

従来のような多くの紙媒体での資料を用意する必要がない。動画を見た職員が、効率よく相談内容を共有することができる。

相談する側も相談を受ける側も効率よく相談を進めることができる。

= 繰り返しの相談が可能

※個人情報の取扱いには細心の注意を払う。

今後の課題	
支援の対象とする地域・学校の拡大	参加しやすく、指導に生かしやすい連絡会の在り方の検討
相談の背景を踏まえた、指導力向上に向けた提案方法の検討	相談実績の積み上げによる相談スキルの向上
連絡会や相談活動の周知、情報発信の方法の検討	個人情報の取扱いや文書・記録の保管に関する検討

ご清聴ありがとうございました。

地域のニーズに応じたセンター的機能を果たすため、
これからも努力続けます。